

令和7年渇水における入畑ダムの効果

- ◆ 入畑ダムでは、7月のダム流域平均雨量が管理開始(H3)以降最少となる「**24mm**」を記録し、管理開始後に渇水傾向となった平成6年6月及び7月降雨を大きく下回る降雨となった。(6月は平年の**約26%**、7月は平年の**約10%**の降水量しかなかった。)
- ◆ 6月～9月において合計「**約1,194万立方メートル(岩手県庁141棟相当)**」の水量をダムから補給。
- ◆ かんがい用水、水道用水、工業用水について、利用者と調整※を行いながら、最低限必要とする水量をダムから放流することにより、**渇水による各種用水への影響を低減**するとともに、夏油川の**河川環境の維持に効果を発揮**した。
- ◆ 6月からの高温少雨によりダム貯水率が日々低下していきながら、関係者と密接な連携※を取りながらダムの運用を行った結果、稲の生育過程で最も水管理が重要となる出穂盛期(令和7年は8月1日前後)においても、ダムから下流域へ必要水量を補給した。

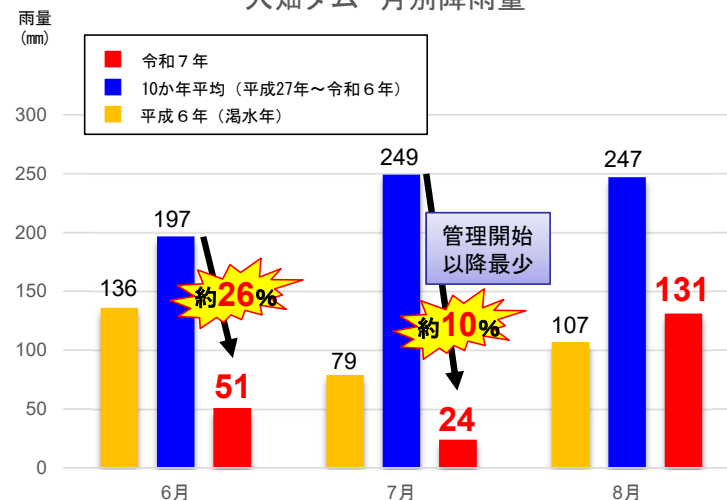
※入畑ダム渇水調整連絡会議を計4回開催。ダム管理者から関係者へダムの状況と今後の見通しを情報提供するとともに、関係者間で水不足に関する危機感(認識)を共有。

入畑ダム流域図
(利水補給範囲)

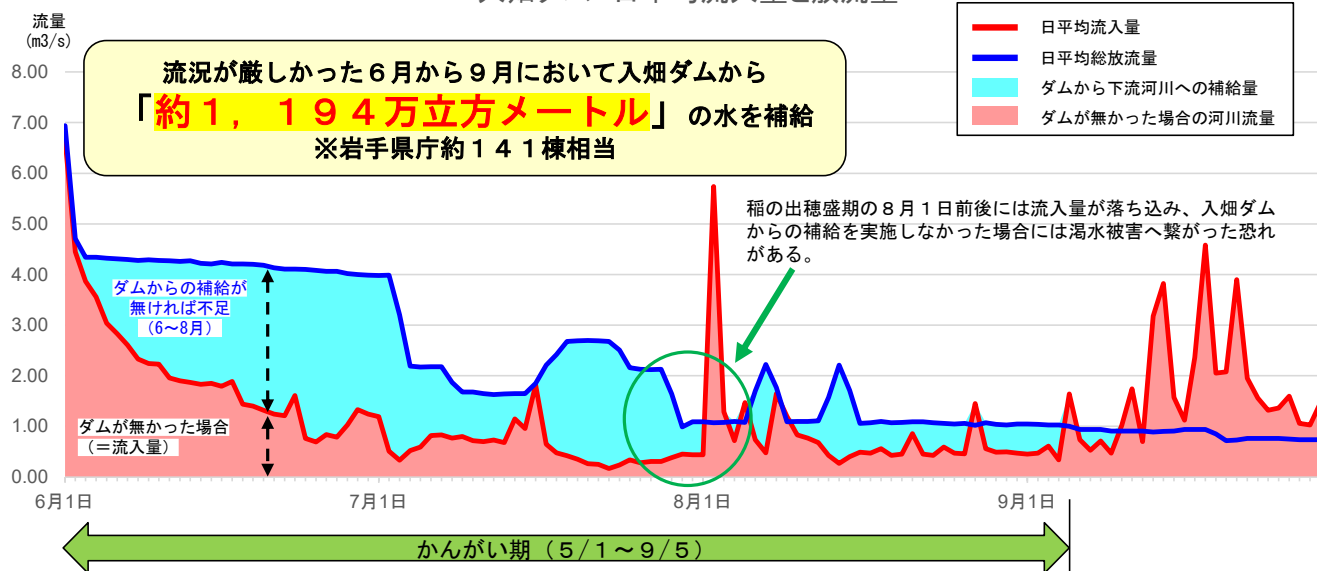


凡 例
湛水区域
集水区域
洪水氾濫防止区域
不特定用水補給区域
水道・工業用水補給区域
かんがい用水補給区域
基準点
ダムサイト

入畑ダム 月別降雨量



入畑ダム 日平均流入量と放流量



【写真】渇水状況

7月29日撮影

撮影時貯水位およそ326.9m

